

## 第1日 よく使われる慣用句 (一)

- 一、①半分も歩かないうちに「(㊀音(ね)をあげる)なんてだらしない。  
②子供たちが帰ってしまうと、わが家は急に「(㊁火が消えたよ  
う)になってしまう。  
③作業中に「(㊂船を漕(こ)ぐ)やつがあるか。  
④あんな男とは「(㊃手を切る)つもりだ。  
⑤悪口を言われようと「(㊄屁(へ)とも思わぬ)さ。  
二、①彼は借金で「(㊅首が回らない)そうだ。  
②論争に「(㊆終止符(しゅうしふ)を打つ)ことになった。  
③こんな大事な仕事で「(㊇味噌(みそ)をつける)なんて思  
いもなかったよ。  
④こんどの失敗で彼の「(㊈首が飛ぶ)だろう。  
⑤そのことについては、ぼくから「(㊉口を切る)わけにはい  
かないよ。  
⑥そんな「(㊊虫のいい)話はないよ。  
⑦少したるんでいる。「(㊋活(かつ)をいれる)必要がある。  
⑧才能を「(㊌鼻にかける)なんていやなやつだ。  
三、①決勝戦のことを考えると「(㊍胸が騒(さわ)ぐ)よ。  
②今度の試験は「(㊎山を張る)のはむずかしい。  
▽「山を張る」と「山をかける」はほぼ同じ意味である。  
③いじわるはするし、すねてばかりいて、この子には「(㊏手

焼く)よ。

- ④先生の「(㊐鼻を明かす)ことばかり考えている。  
⑤彼は「(㊑抜け目がない)男だから、不利になるようなことは  
やらないよ。  
⑥まあ、ずいぶん少ないのね。これじゃあ「(㊒雀(すずめ)の  
涙(なみだ)」ほどじゃないの。  
▽「蚊の涙」も「雀の涙」と同じ意味である。  
⑦酔って「(㊓管(くだ)を巻く)なんてみっともない。  
⑧「(㊔眼の玉が飛び出る)ほど高くてびっくりした。  
⑨助けたくてももう「(㊕手がない)よ。  
四、①「(㊖尻(しり)がすわらぬ)男でじっとしていない。  
▽「尻」と「(㊗の「屁」とを混同しないこと。  
②「(㊘人を人とも思わぬ)悪人だ。  
③そっとしておいた方がいい。二人の争いに「(㊙火を付ける)  
ことになるから。  
④「(㊚目に角(かど)を立てる)ほどのことではないだろう。  
⑤つい「(㊛口が滑(すべ)る)ことだってあるさ。  
▽「口が滑る」は「口が迂る」とも書く。  
⑥あまりおだてない方がいい。彼はすぐ「(㊜図(ず)に乗る)  
からね。  
▽「図に乗る」と「調子に乗る」はほぼ同じ意味である。  
⑦「(㊝手取り足取り)指導してもらった。